

J **apanese text**

2017年 秋/冬号 日本語編

**イベント
ガイド**

文＝鈴木糸子、岡崎 香

p.064

**写実的な造形を確立した天才仏師
興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」**

卓越した表現技法により多くのファンを持つ、日本で最も有名な仏師・運慶。この秋に開かれる展覧会は、全国各地の寺院で今も崇敬を集める運慶の名品が一堂に会する稀有な機会となっている。平安時代末期～鎌倉時代に活躍した運慶は、それまでとは全く異なる、生身の人間さながらの生命力みなぎる仏像を作り上げ、見る者を圧倒してきた。現存する30体前後の運慶作と言われている仏像の中でも、初期～晩年までを通覧する作品を集めるとともに、同じく仏師であった父・康慶^{こうけい}、息子・湛慶^{たんけい}、康弁^{こうべん}らの作品も揃えることで、その作風の誕生と継承の軌跡に迫る。興味深いのが、寺院では主に正面からしか見ることができない仏像を360度全方向から見られること。さらに、新たにX線CT調査によって確認された像内納入品の画像など最先端の情報も紹介。運慶の仏像について総合的に知ることができる機会だ。(鈴木糸子)

9月26日～11月26日
東京国立博物館 平成館（上野公園）
Tel. 03-5777-8600（ハローダイヤル）
unkei2017.jp

（写真）

国宝《毘沙門天立像》運慶作 鎌倉時代 1186年 静岡・願成就院

写真＝六田知弘

執着と不寛容の行き着く先は…？

『表に出ろいっ!』English version “One Green Bottle”

2010年秋に東京で初演された『表に出ろいっ!』は、現代日本を代表する演劇人・野田秀樹が「信じるとは何か？」をテーマに作・演出し、人気歌舞伎俳優と夫婦役を演じたことでも話題になった三人芝居。その英語版が上演される。登場人物は、それぞれに偏愛し、熱心に追い続けている趣味を持つ父と母と娘。臨月を迎えた飼い犬がいて、誰かが家に居なければならないのに、その日に限って趣味の大事なイベントが重なり、三人とも出かけると主張して譲らない。やがて泥沼の闘いが始まり……。英語翻案は、英国アカデミー賞にノミネートされた映画『Black Pond』などで注目を集める作家・演出家・俳優ウィル・シャープ。野田が初演に続いて母役、野田が信頼を寄せる英国人俳優キャサリン・ハンターが父役、グリーン・プリチャードが娘役を務める。作詞は歌舞伎囃子家元の十三代目田中傳左衛門。東京公演の後、ソウルで公演を行い、その後世界ツアーを行う予定。(岡崎 香)

11月1日～19日（プレビュー公演10月29日・31日）
東京芸術劇場シアターイースト
www.geigeki.jp

11月23日～26日
ソウル・韓国国立明洞芸術劇場
www.ntck.or.kr/en

（写真）

アートディレクション：吉田ユニ

**江戸の生活に根ざした
華麗な和ガラスに親しむ
瓶泥舎びいどろ・ぎやまん・ガラス美術館**

国内でも珍しい和ガラス専門の美術館として、2011年4月に愛媛県松山市に誕生した「瓶泥舎（びんでいしゃ）びいど

ろ・ぎやまん・ガラス美術館」。16世紀に南蛮船によって日本にもたらされたガラスは、17世紀半ば（江戸中期）には国内でも本格的に生産が始まり、「びいどろ・ぎやまん」と呼ばれて珍重された歴史を持つ。吹きガラスやビーズ細工による美術品を始め、食器や文房具、髪飾り、灯火器や雑道具、ガラス絵やトンボ玉などの珍しいガラス工芸品も作られ、日本人の生活を彩ってきた。こちらの美術館では、江戸時代のものを中心に、1940年頃（昭和初期）までに生まれた“和ガラス”の中でも、時代ごとの表現の差異や変遷の一端が伝わるもの、そして何よりも美しさという観点から厳選した作品を所蔵。50年間かけて研究・蒐集を重ねた経験から、独自のテーマによる特別展を年2回企画し、常時100～150点ほどを展示している。特別展示室の和室には、照明器具や屏風などが展示ケースなしで配置されており、実際に和ガラスが使われていた江戸時代の雰囲気を体験できるのも魅力。古い洋館を改装した美術館の横には庭が広がり、緑を眺められるティールームに古美術を扱うショップも併設され、アンティークの和ガラスを入手することも可能。美術館のある松山市道後温泉一帯は情緒ある古湯として親しまれ、文豪・夏目漱石の『坊っちゃん』の舞台として史跡なども残り、足を延ばして訪れるにふさわしい場所だ。（鈴木糸子）

愛媛県松山市道後緑台7番21号
 Tel.&FAX 089-922-3771
www.bindeisha.co.jp
 電話もしくはHPより要予約

開催中の企画展は「和ガラスの美 光のエlegance」（～11月19日）。
 その次の企画展は「びいどろの道具 江戸の粋と遊びどころ」（11月25日～2018年3月11日）。
 11月20日～24日、12月29日～1月1日は閉館。

（写真）

《彩絵酒盃》江戸時代 口径8.0～10.0cm
 「和ガラスの美—光のエlegance」より

《片吹き色替草花文三段重》江戸時代（1711～1781年）高23.5cm
 胴径13.3cm
 代表的コレクション。展示予定は未定。詳細は美術館まで。